

1 2 学年

2 教材 絵画

3 題材名 透明水彩による建物の風景画  
ーアクティブラーニングを取り入れながら線遠近法（透視図法）を理解し、建物の風景画制作に取り組む。ー  
（学習指導要領 美術Ⅱ A表現（1）絵画・彫刻，B鑑賞）

4 題材目標

- (1) 絵画の歴史における遠近法の発展を学び、建物の遠近感の表現方法を理解することにより、効果的な構図や視点に興味を持ち、意欲的に制作する。（関心・意欲・態度）
- (2) 透明水彩絵の具の表現方法に興味を持ち、グループでの表現練習を通じて効果的な表現方法等を話し合いながら創作意欲を高める。（関心・意欲・態度）
- (3) 光や影などが及ぼす様々な色彩に気づき、制作のための構想を練る。（発想や構想の能力）
- (4) 透明水彩絵の具による制作手順を学び、表現方法を工夫して制作に取り組む。（創造的な技能）
- (5) 自分の作品について、表現したかったことや工夫した点などを発表し合い、鑑賞し合うことで、それぞれの作者や作品の個性に関心を持ち、美しさや表現の豊かさなどを感じ取り、多様な視点から鑑賞する能力を高めるとともに、自らの作品を振り返り、自己評価につなげる。（鑑賞の能力）

5 題材指導計画

- (1) 導入 3 時間
  - ア 教科書の風景画作品を鑑賞し、様々な遠近感の表現方法や色彩表現について学び、建物を主題にした風景画の制作手順を理解する。（1 時間）
  - イ グループで協力して箱形の骨組み模型を針金で作し、教室内や身近なものを見ながら線遠近法の基本を理解する。（1 時間）
  - ウ 一点透視，二点透視，三点透視について，模型を用いて練習問題に取り組み，グループで話し合いながら線遠近法の技法を理解し，建物を描く作品の構想を練る。（1 時間〔本時〕）
- (2) 展開 1 4 時間
  - ア 線遠近法の技法を用いて校舎や校内をスケッチする。（1 時間）
  - イ 透明水彩の技法を学び，各自が工夫した表現方法をグループ内で発表し，相互にアイデアを取り入れながら表現計画を考える。水彩紙を B 2 パネルに水張りする。（2 時間）
  - ウ B 2 パネルに水張りをしておいた水彩紙に下描きをする。（2 時間）
  - エ 透明水彩で着色をする。また，各時間の終了時にその時間の作品制作のなかで行った表現の工夫について発表し合い，その時間を振り返るとともに次時への参考とする。（9 時間）
- (3) まとめ 1 時間
  - ア 自分の作品について，表現したかったことや制作上の工夫などを発表し合い，お互いの作品を鑑賞し合うことで，それぞれの作者や作品の個性を感じ取る。また，遠近感の表し方やおもしろさなどに気づき，美術の文化について理解を深める。
  - イ 自らの制作を振り返り，自己評価をする。

6 単元の評価計画（評価規準）

美術への関心・意欲・態度 （ア）	発想や構想の能力 （イ）	創造的な技能 （ウ）	鑑賞の能力 （エ）
<p><b>表現</b> ○建物を中心とした風景画や建物の遠近感を表す表現技法に興味・関心をもち、授業に取り組もうとしている。</p> <p><b>鑑賞</b> ○他の生徒の遠近感や色彩表現に関心をもち、作品のよさや美しさを感じ取り、理解を深めようとしている。</p>	<p>○対象の建物をじっくりと見つめ、線遠近法の技法を活用しながら、空間表現や存在感を表現する構想を練っている。</p> <p>○建物の立体感や存在感を把握し、感じ取ったことや考えたことを基に、表現したい主題を発想している。</p>	<p>○遠近法を理解し、建物の表現に生かそうとしている。</p> <p>○透明水彩絵の具の特性や筆やその他の用具を使った技法を理解し、表現に生かそうとしている。</p>	<p>○教科書の作品をじっくりと味わい、遠近感や色彩の美しさを味わっている。</p> <p>○相互の発表を通じて、自他の作品の制作意図と表現の工夫などを感じ取り、作品について理解を深めている。</p> <p>○自他の作品を鑑賞し、そのよさを味わっている。</p>

7 本時の目標

- (1) 模型を参考にしながら、透視図法の練習問題に取り組み、線遠近法を理解する。
- (2) グループ内で学習の考察をすることにより、生徒各々が意欲的に描いてみたい建物の視点やイメージを構想したり、作品制作時の活用を図ったりする。

8 本時の学習展開

段階 （配当時間）	学習内容 学習活動	学習活動の支援・ 指導上の留意点	観点別評価
<p>導入 （5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・出欠確認</li> </ul>	<p>○教科書の風景画のページを開け、制作についてのイメージをつかむと共に、線遠近法を学ぶ大切さを確認する。</p> <p>○ワークシートNo.1の内容を振り返り、線遠近法の基本を確認する。板書での説明を聞き、本日の目標や学習活動の流れを理解する。</p>	<p>○教科書と前回配布したワークシートNo.1を用意させる。（別紙資料1）</p> <p>○線遠近法が絵画の歴史と共に発展しており、現代でも必要な技法であること確認させる。</p> <p>○ワークシートNo.1（別紙資料1）及び板書で、本日の目標や流れを理解させる。</p>	
<p>展開1 〈一点透視の理解〉 （15分）</p>	<p>○前回グループごとに制作した線遠近法のための針金製の箱形骨組み模型（20cm×20cm×20cm）を用意する。</p> <p>○ワークシートNo.2（別紙資料2）を配布し、一点透視の練習問題に取り組む。（15分以内でグループ全員正解を目指す）</p>	<p>○模型で確かめながら製図するようアドバイスする。</p> <p>○グループのメンバー全員が時間内に正解できるよう先に正解した生徒に、遅れている生徒に対して説明をさせる。</p>	<p>○一点透視に関心を持ち、練習問題に取り組んでいる。（ア）</p> <p>○一点透視図法の習得を図り、対象を表現しようとしている。（ウ）</p>

<p>展開2 〈二点透視， 三点透視の 理解〉 (20分)</p>	<p>○くじ引きをし，ワークシートNo.3(別紙資料3)のための新しいグループを作る。 ○ワークシートNo.3を配布し，二点透視，三点透視の練習問題に取り組む。(15分以内でグループ全員正解を目指す)</p>	<p>○模型で確かめながら，一点透視図法での練習を活かすようアドバイスする。 ○グループのメンバー全員が時間内に正解できるよう先に正解した生徒に，遅れている生徒に対して説明をさせる。</p>	<p>○二点透視，三点透視に関心を持ち，練習問題に取り組んでいる。(ア)(イ) ○二点透視，三点透視の図法の習得を図り，対象を表現しようとしている。(ウ)</p>
<p>まとめ 〈作品の構 想〉 (10分)  ワークシ ートの提 出  挨拶</p>	<p>○自分の席にワークシート等を持って戻る。 ○ワークシートNo.2, No.3(別紙資料2, 3)を振り返り，グループ内で線遠近法のおもしろさについて発見したことを発表し合う。 ○次回からの授業で，本番作品として描いてみたい建物の雰囲気や視点について意見を交換し，ワークシートNo.3に記入する。 ○ワークシートNo.1～3を提出する。 ○片付け</p>	<p>○建物の見え方のおもしろさについて，感じたことや発見したことをグループの中で話し合わせる。  ○見上げた角度や斜めからの角度など，自分が興味を持ったものについて記入し，次回からの校舎のスケッチ場所の構想を立てる。</p>	<p>○線遠近法への理解を深め，次回からの本番制作に取り組もうとしている。(ア)(イ)(ウ)</p>

# 線遠近法ワークシート①

(線遠近法の基本を学ぼう)

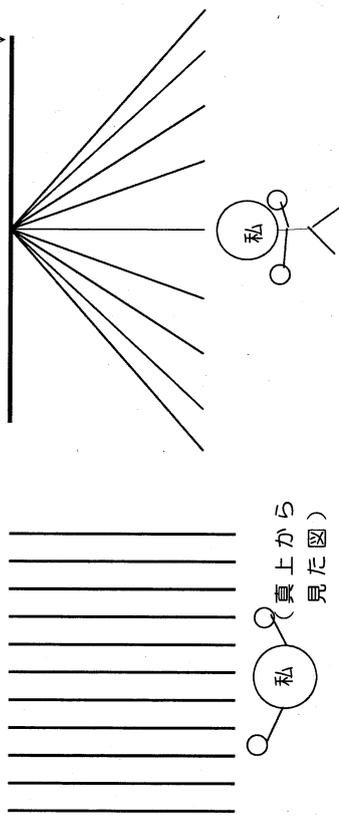
## 1 地平線を知る

地上にいる限り、どこ(どんな高さ)にいても地平線(水平線)がある。



## 2 平行線の見え方A

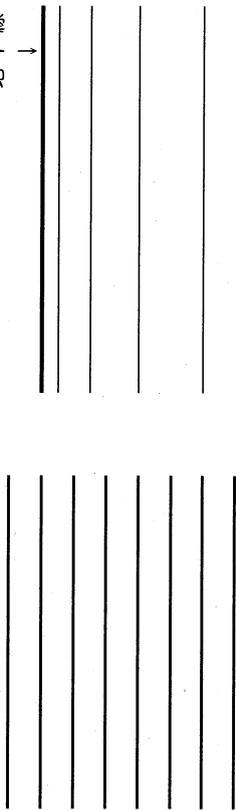
地上では、縦の平行線は、あたかも地平線のある1点に向けて集中(消失)するかのように見える。  
この消えていく1点を\_\_\_\_\_という。



(真上から見た図)

## 3 平行線の見え方B

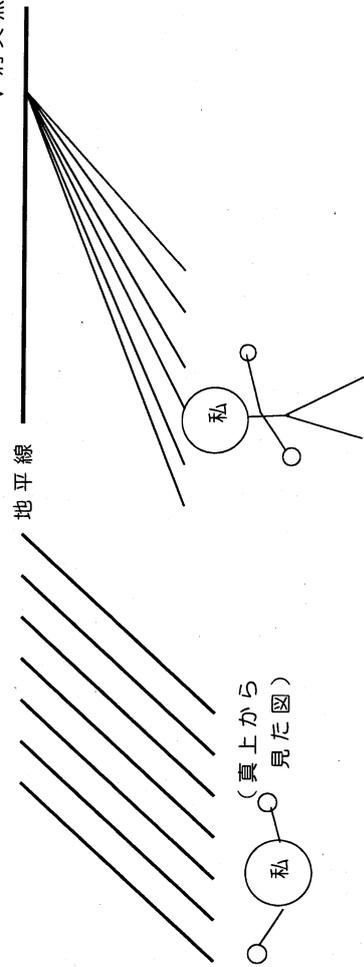
地上では、横の平行線は、地平線に向かって見た目の幅がだんだん\_\_\_\_\_なっていくように見える。そしてついに地平線と見分けがなくなくなる。



(真上から見た図)

## 4 平行線の見え方C

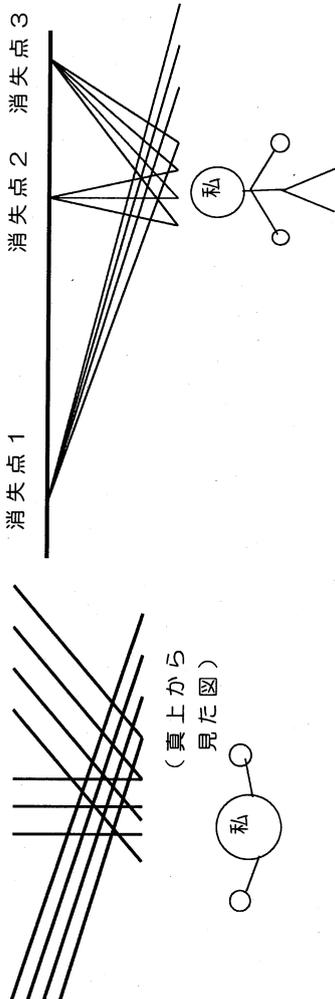
自分の前にある 斜めの平行線は、地平線上の平行線の方向に向かって、1点に集中するように見える。



(真上から見た図)

## 5 平行線の見え方D

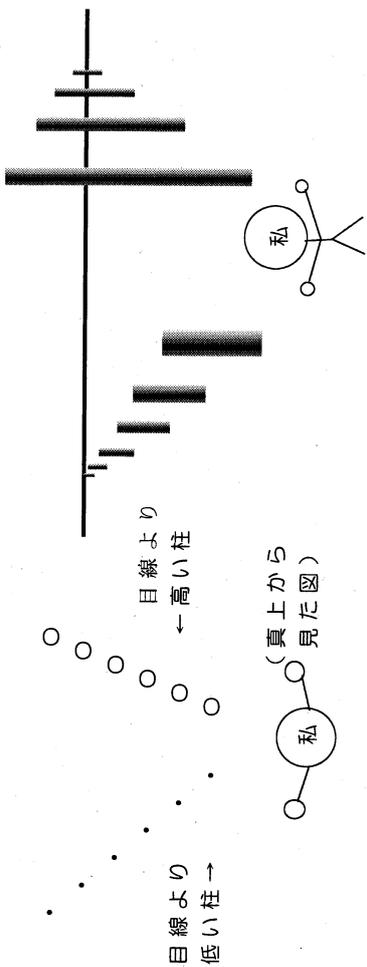
交差する2つ以上の平行線は、それぞれの方向に向かって地平線上に消えていくように見える。



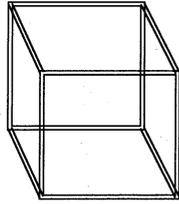
(真上から見た図)

## 6 等間隔に置かれた柱の見え方

自分の前に同じ高さの低い柱と高い柱がそれぞれ等間隔に置かれている場合、地平線に向かってそれぞれその方向に次第に小さくなっていくように見える。



(真上から見た図)



前回制作した箱の骨組み模型を用意し  
確認しながら作図しよう。



★自分の席のグループで、教え合いながら時間内に  
全員合格を目指す。

2年 組 ( 班 ) 氏名

2 自分の目線より上で向かって右側にあるとき (箱の前の面の遠近による変形はないものとする)

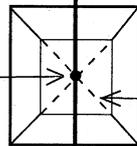
1 自分の目線より上と下にそれぞれ四角い箱があるとき。(奥行きは任意に設定する) 製図の補助線は、点線 (または薄い線) で描く。図中の四角形は箱の前面とし、模型と同様に骨組みの状態を製図する。(以下全ての問題は同じく骨組みで描く)

〈目の高さにあるとき〉 〈目線より上にあるとき〉 〈目線より下にあるとき〉

(例)



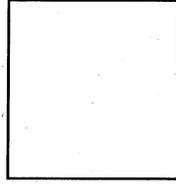
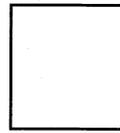
消失点



製図の補助線

消失点

消失点



消失点

# 線遠近法ワークシート③

(二点透視・三点透視練習問題)

★くじ引きで作った新たなグループの中で、教え合いながら時間内に全員合格を目指す。

1 自分の目線より下に縦の辺の二つ(角)を手前にして置かれた箱があるとき

↓ 消失点 1

消失点 2 ↓



2年組(班)氏名

2 空中に浮かんでいる背の高いビルを見上げているとき(自分はビルの一つの高さに立っているとすると)

● ← 消失点 3

☆本日の授業最後に記入するコーナーです↓

次回からの本番制作で描いてみたい建物の視点や雰囲気は?